

令和4年度 第4回 大分市総合教育会議

日時：令和5年2月24日（金）10：00～11：00

場所：本庁舎8階 大会議室

次 第

1. 開 会

2. 議 事

- (1) 文化・芸術を通じた次世代を担う子どもたちの育成について
- (2) 令和4年度「大分市教育大綱・教育ビジョン」関連事業報告について

3. 閉 会

令和4年度 第4回総合教育会議

2月24日(金) 10:00~
本庁舎8階 大会議室



webカメラ

久渡副市長 市長 教育長

古城(和)委員

上杉委員

古城(一)委員

廣津留委員
(オンライン)



マイク・スピーカー



記
者
席

教育部 坪根審議監	教育監	教育部長	企画部長	子どもすこやか 部長	企画部 高橋審議監
学校教育 課長	教育総務 課長	教育部 村上次長	企画部 林審議監	企画部 川野次長	企画課長
美術振興 課長	体育保健 課長	学校施設 課長	スポーツ振興 課長	商工労政 課長	文化振興 課長
人権・同和教育 課長	教育センター 所長	子育て支援 課長	保育・幼児 教育課長	市民協働 推進課長	国際 課長
社会教育 課長	公園緑地 課長	障害福祉 課長	生活福祉 課長		
傍聴席		傍聴席		傍聴席	

入口

文化・芸術を通じた

次世代を担う子どもたちの育成について

令和4年度 第4回大分市総合教育会議 資料

【内 容】

1. 市民の文化・芸術に関する意識調査…………… P 1
2. 子どもたちにおける文化・芸術の役割…………… P 1
3. 本市の文化・芸術に関する計画…………… P 2
4. 市長部局の取組事例…………… P 3～4
5. 教育委員会の取組事例…………… P 5～6

文化・芸術を通じた次世代を担う子どもたちの育成について

1. 市民の文化・芸術に関する意識調査

令和元年度に実施した「大分市文化・芸術に関するアンケート調査※」では、「**子どもの頃から文化・芸術に触れる機会の必要性**」について、「(必要と)思う」「ある程度思う」と回答した人が**94.7%**と高い割合を示した。

また、文化・芸術施策の満足度・重要度を分類した相関表では、満足度が低く、重要度が高いことを示す**早期改善項目**の上位3つに子どもに関する取組が位置しており、子どもたちが様々な場面で文化・芸術に触れることの必要性や次世代に向けた人材育成を求めていることが明らかになった。

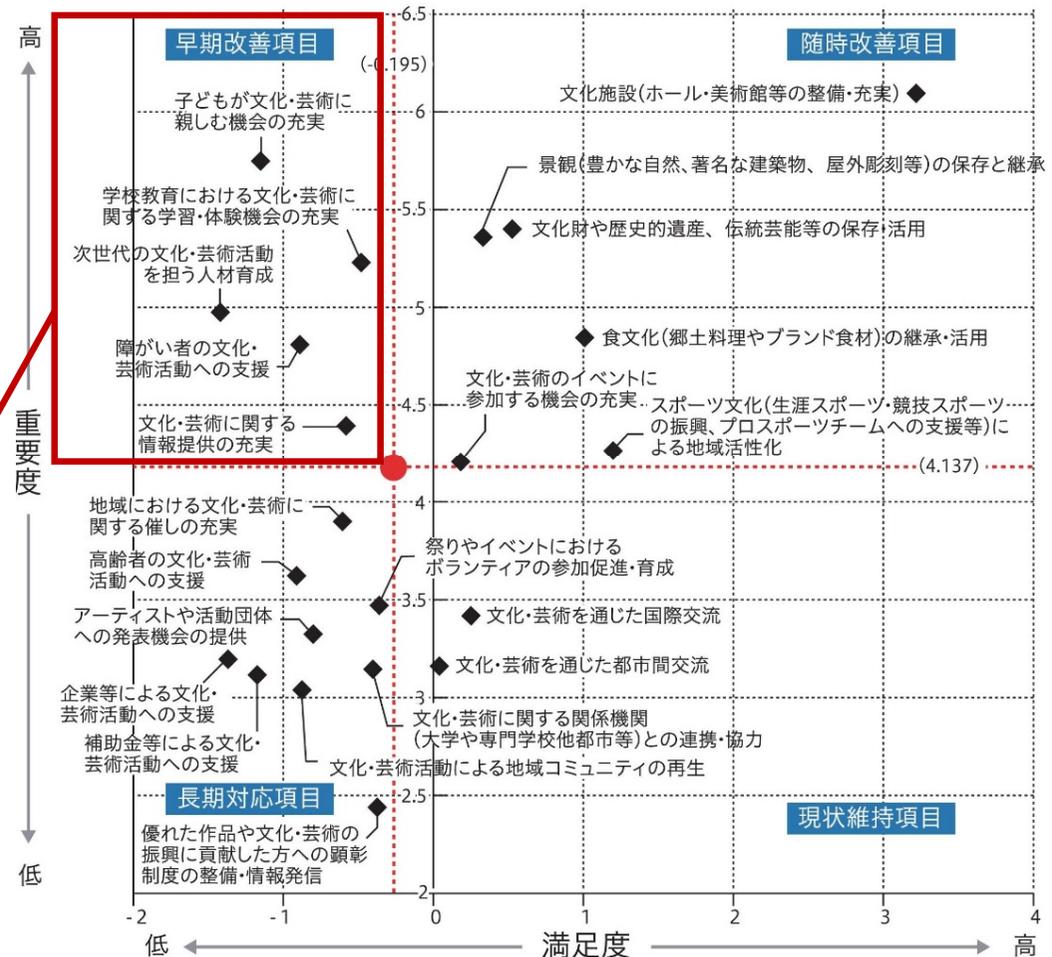
※無作為に抽出した18歳以上の市民3,000人を対象とした郵送調査

早期改善項目

重要度(高)

- ①子どもが文化・芸術に親しむ機会の充実
- ②学校教育における文化・芸術に関する学習・体験機会の充実
- ③次世代の文化・芸術活動を担う人材育成
- ④障がい者の文化・芸術活動への支援
- ⑤文化・芸術に関する情報提供の充実

満足度・重要度の平均スコアによる散布



2. 子どもたちにおける文化・芸術の役割

■子どもたちの創造性や感性を高め、
多様な価値観を身につけることにつながる

■心豊かな市民生活を実現するとともに、
郷土を愛する心や地域の一体感を醸成する

※第2次大分市文化・芸術振興計画「おおいた文化・芸術推進プラン2024」より引用

文化・芸術を通じた次世代を担う子どもたちの育成について

3. 本市の文化・芸術に関する計画

本市の文化・芸術振興の指針となる計画として、令和3年3月に第2次大分市文化・芸術振興計画「おおいた文化・芸術推進プラン2024」を策定し、3つの基本目標「はぐくむ」「ささえる」「つなぐ」に沿った各種取組を推進している。

特に、子どもたちに関しては、「はぐくむ」の基本施策に「次世代を担う子どもたちの育成」を掲げ、学校教育をはじめとする様々な場面で文化・芸術に関する取組を積極的に行っている。

計画名	おおいた文化・芸術推進プラン2024
期間	令和3年度～令和6年度
対象	芸術、メディア芸術、伝統芸能、芸能、郷土文化、生活文化、文化財、地域における文化・芸術等
基本理念	こころ輝く 大分市 -文化・芸術でつくる人とまち-



(基本目標)

(基本施策)

(将来像)

はぐくむ

ささえる

つなぐ

- (1) 多彩な文化・芸術に触れる機会の充実 → 身近な場所で気軽に多彩な文化・芸術に触れています

 - ①市内各地で多彩な文化・芸術事業の展開
 - ②質の高い魅力的な文化・芸術事業の展開
 - ③市民の特性に合わせた効果的な情報発信
- (2) 次世代を担う子どもたちの育成 → 多くの子どもたちが文化・芸術に興味をもち、次世代の担い手育成につながっています

 - ①子どもたちが文化・芸術に触れる機会の提供
 - ②子どもたちの文化・芸術活動の発表の機会の提供
 - ③子どもたちが歴史・伝統文化を学ぶ機会の提供
- (3) 文化・芸術環境の充実 → 公共施設等を拠点に文化・芸術の交流が広がっています

 - ①公共施設の利便性の向上
 - ②市民交流・情報発信の拠点づくり
- (1) 主体的・創造的な文化・芸術活動の支援 → 様々な場面で主体的・創造的な文化・芸術活動を支援しています

 - ①文化・芸術活動の場・発表の機会の提供
 - ②自主的な文化・芸術活動の支援
 - ③文化・芸術情報の集積・発信・活用
- (2) 多様な市民の文化・芸術活動の促進 → 誰もが文化・芸術活動を通じて社会に参加しています

 - ①高齢者の文化・芸術活動等の支援
 - ②障がい者の文化・芸術活動等の支援
 - ③県や関係施設等との連携・協力
- (3) 文化・芸術を支える基盤づくり → 市民、地域、企業、行政等が一体となって、文化・芸術を支えています

 - ①文化・芸術を担う人材の育成・活用
 - ②公共施設の適切な運営・維持管理
 - ③産学官との連携・協力
- (1) 文化財・伝統文化・食文化の保存・継承・活用 → 地域に伝わる文化財・伝統文化・食文化が脈々と受け継がれています

 - ①文化財の保護・保全・活用
 - ②伝統文化の保存・継承
 - ③食文化の継承・活用
- (2) 地域・都市・国際交流の充実 → 文化・芸術によって地域、都市、国で交流が生まれ、絆が深まっています

 - ①文化・芸術による地域内交流の促進
 - ②文化・芸術関連自治体との都市交流の推進
 - ③文化・芸術による国際交流の推進
- (3) 文化・芸術の創造性を生かした新たな価値の創出 → 文化・芸術と幅広い関連分野との連携で新たな価値が生まれ、社会・経済が活性化しています

 - ①文化・芸術の幅広い関連分野への活用
 - ②文化・芸術によるにぎわいの創出・地域経済の活性化
 - ③魅力ある文化・芸術資源の活用・国内外への情報発信

4. 市長部局の取組事例

文化・芸術への興味・関心が高まるよう、身近な場所で気軽に文化・芸術に触れる機会を提供するとともに、子どもを対象とした公演やワークショップ等を開催する。また、創造し表現することの喜びにつながるよう、活動の成果を発表できる展覧会等を開催するとともに、表彰制度を通じた意欲の向上を図る。

1 アートレジオン推進事業

文化振興課

※アートレジオンとは、英語のアート（芸術）と仏語のレジオン（地域）を組み合わせた造語

【事業目的】

人口減少や少子高齢化が進む周辺地域に市内外からアーティストを呼び込み、アートイベントや制作活動等を通して文化・芸術の振興及び地域の活性化を図る。

【令和4年度取組実績】

●旧小学校をアトリエとして活用

現在、旧大志生木小学校（佐賀関）に7組、旧野津原中部小学校に5組のアーティストが利用中。

●ワークショップ「開校！こどもアート学校」を佐賀関・野津原・大南地区で開催

上記アーティストらによる子ども向けのワークショップを旧小学校等で開催し、多くの親子連れが参加。また、普段、創作活動を行うアトリエを公開し、アーティストとの交流を図った。

●地域周遊型展覧会「だいなんアートコレクション」を開催

アート作品を通じて地域各所を巡る展覧会を佐賀関、野津原地区に続き、今年度は大南地区で実施。

画家の芳賀健太氏は、吉野梅園の由来をモチーフにした作品を吉野小6年生と共同制作した。



開校！大志生木こどもアート学校



だいなんアートコレクション（芳賀氏作品）/吉野梅園

2 別府アルゲリッチ音楽祭 能楽堂公演 中学生無料招待

文化振興課

【事業目的・令和4年度取組実績】

本市が主催者として参画する「別府アルゲリッチ音楽祭」のプログラムの一つ「ピノキオコンサート～大人とこどものための音・学・会」にて、アルゲリッチ氏が本市所有の平和市民公園能楽堂で初めて演奏されることを記念して、市内中学生とその保護者20組を無料招待（抽選）し、未来を担う子どもたちに一流の芸術に触れる機会を提供した。



(C) 脇屋 伸光

ピノキオコンサート～大人とこどものための音・学・会

3 おおいた夢色音楽プロジェクト

文化振興課

【事業目的】

本市が日本における「西洋音楽発祥の地」であることにちなみ、年間を通して音楽があふれ、道行く人が心とむような「音楽のまち大分」を実現するため、多彩な音楽イベントを実施する。

【令和4年度取組実績】

中心部のストリートステージが舞台の「おおいた夢色音楽祭」をはじめ、「どこでもコンサート」や本市ゆかりの若手演奏家による「大分市ふるさとコンサート」を実施。また、のつはる天空広場にて、市内中学校・高校吹奏楽部など様々な音楽団体が出演する野外音楽祭「のつはる音の森フェスティバル」を開催した。



のつはる音の森フェスティバル

4 アートを活かしたまちづくり事業

商工労政課

【事業目的・令和4年度取組実績（拡充）】

文化・芸術の持つ創造性を産業の振興や地域の活性化に活かすため、中心市街地を舞台にアートフェスティバル等を行う。令和4年度は、空きビルを情報発信拠点として活用しアート作品を展示したほか、まち歩きツアーやワークショップを行うなど、子どもから大人まで幅広い年代の方たちがまちの魅力を感じ、楽しみながら文化芸術に触れられるアートフェスティバル2022「回遊劇場 AFTER」を開催した。



ワークショップの様子

5 クリエイティブ産業育成事業（おおいたデザイン・エイド）

商工労政課

【事業目的・令和4年度取組実績】

企業やクリエイター、学生など多様な主体に学びの場と実践の場を提供する。令和4年度は、事業の一環として、企業のロゴや商品のパッケージをテーマにしたデザインコンテストを開催した。



【学生賞（一部）】大分トリニータ ユニフォームのデザイン

6 アーティストバンク推進事業

文化振興課

【事業目的・令和4年度取組実績（新規）】

文化・芸術団体（個人）及び発表場所として提供可能な民間施設等の情報をデータベース化し、双方のマッチングイベントを促進することで、子どもを含む多くの市民がより身近な場所で文化・芸術に触れられる機会を創出する。令和4年度は設立に向けた現状分析として民間施設の利用実態や課題等を調査。

5. 教育委員会の取組事例

優れた文化・芸術に触れる機会の拡大や本市独自の文化・芸術の情報発信、市民の主体的・創造的な活動の場の創出、文化財の保存・活用・継承に努め、郷土を愛する心や地域の一体感を醸成し、幅広い関連分野への活用に向けた文化・芸術を生かしたまちづくりを進める。

1 FUNAIジュニア検定

文化財課

【事業目的・令和4年度取組実績】

子どもたちに郷土に対する理解と愛着を深めてもらい、大分の未来を担う次世代の育成を図ることを目的とする。市内全小学校6年生へ配布する大友宗麟副読本をもとに、大友氏を中心とした大分の歴史に関する歴史検定を小中学生対象に実施した。検定合格者のうち希望者は「FUNAIジュニアガイド」として養成を行う。令和4年度は155名が受検、13名が合格した。



FUNAIジュニア検定表彰式

2 歴史資料館体験活動

文化財課

【事業目的・令和4年度取組実績】

大分市歴史資料館では子どもたちの豊かな心を育むために、郷土の歴史や文化、先人たちの優れた生き方を学ぶことを目的として、学校と連携し教育課程に沿って昔の道具のしくみやくらしの変化などを体験する学習プログラムを実施した。令和4年度は市内44校の小学校3年生約4,000名の子どもたちが参加した。出張歴史体験では、市内11校の小学校6年生約1,000名の子どもたちが、勾玉づくり・火起こし体験に取り組んだ。



火起こし体験活動

3 展覧会事業

美術振興課

【事業目的・令和4年度取組実績】

市美術館では、子どもたちが文化・芸術に触れる機会の提供を目的として展覧会事業に取り組んでいる。令和4年度は、「福田平八郎と大分の日本画家たち」を開催し、大分市出身で文化勲章受章者の福田平八郎をはじめとする地元作家たちの優れた作品を紹介した。さらに、第61回「福田平八郎賞」大分市小・中、特別支援学校図画展と第54回「朝倉文夫賞」大分市小・中、特別支援学校彫塑展を開催し、子どもたちの芸術活動の発表の場を提供した。



福田平八郎と大分の日本画家たち 会場の様子

4 教育普及事業

美術振興課

【事業目的・令和4年度取組実績】

市美術館では、子どもたちが文化・芸術に触れる機会の提供を目的として教育普及事業に取り組んでいる。令和4年度は、市内小・中学校への出前教室や夏の子ども講座、ワークショップと鑑賞を合わせた体験プログラム等を開催した。また、アートプラザでは、磯崎新の業績を紹介する「磯崎新パネル展」や「磯崎建築を学ぶ講座」、ワークショップをはじめとする様々な教育普及事業に取り組んだ。



大分市立上戸次小学校での出前教室の様子

5 学校での取組事例 大分市立鶴崎小学校

学校教育課

●こども踊りクラブ（鶴崎踊）

鶴崎の地に伝わる伝統芸能「鶴崎踊」を継承したいという児童の声から、約15年前に発足した。鶴崎おどり保存会会員の指導のもと、毎週月曜日の放課後に体育館で練習を行っている。今年度は、37名の児童が参加しており、令和4年11月13日に行われた「鶴崎元気祭」で踊りを披露することができた。

●熊本市との交流

熊本市のNPO法人「自然を愛する会」が「参勤交代九州横断徒歩の旅」事業で来県した際、出発式に6年児童が参加している。また、修学旅行で熊本城を訪れた際、地元ボランティアによるガイドのもと、城内の見学を行っている。



大分市立鶴崎小学校「こども踊りクラブ（鶴崎踊）」

6 学校での取組事例 大分市立植田南中学校

学校教育課

●茶道部活動

茶道裏千家流正教授である烏谷晴美氏を講師に迎え、毎週金曜日、14名の生徒が体育館和室において活動している。これまで、入学式や卒業式、文化祭等で友人や保護者、地域の方々にお茶をふるまっていた。現在は、お茶のたて方、おひがしの食べ方や歩き方などの礼儀作法を学んだり、担任の先生にお点前を披露したりするなどの活動を行っている。



大分市立植田南中学校「茶道部活動」

令和4年度 大分市教育大綱・大分市教育ビジョン関連事業の概要及び実績

資料2

新規事業

拡充事業

重点事業

(市)・・・市長部局

教育大綱 目標	教育ビジョン 重点施策	番号	事業名	事業の概要	事業の実績	担当課
目標1 次代を担う人材育成	小中一貫教育の推進	1	大分市小中一貫教育推進事業	「確かな学力の定着・向上」、「豊かな心の育成」、「健やかな体の育成」をバランスよく推進し、自ら学び自ら考える力などの生きる力を育成する上から、義務教育9年間を見通した系統的な教育を行うとともに、小中学校間の円滑な接続を図る小中一貫教育を推進する。	全小中学校及び義務教育学校において、学校や地域の特色を生かし、9年間を見通した系統的な教育課程の編成、実施、改善の取組を推進した。 公開研究発表会(戸次中学校区・植田南中学校区)及び小中一貫教育推進フォーラム(王子中学校区・大東中学校区)を実施し、取組内容を市内各学校に情報提供することで、研究内容や成果を還元した。	学校教育課
		2	教科指導マスター派遣事業	経験豊富で実績のある退職教職員を「教科指導マスター」として中学校に派遣し、国語科、数学科、理科、社会科、英語科の具体的な授業場面において担当教員へ指導・助言を行う。	「教科指導マスター」を中学校に派遣し、国語科、社会科、数学科、理科、英語科の具体的な授業場面において担当教員へ指導・助言を行った。 【派遣実績】 教科指導マスター1人当たりの学校訪問回数:月平均13.1回(令和4年12月末時点) 【配置状況】 国語科4名、社会科3名、数学科4名、理科4名、英語科2名(計17名)	学校教育課
		3	大分っ子基礎学力アップ推進事業	児童生徒の基礎学力の向上に向け、小学校4校と中学校2校を「基礎学力向上研究推進校」に指定し、教科指導における実践的な研究を進めるとともに、市内全小中学校等を対象に、標準化された学力調査を実施する。	基礎学力向上研究推進校2年次の3校については、公開研究発表会を行い、研究成果を他校に還元した。1年次の西の台小学校については、大分大学の教授等に一年間を通して校内研究に関わってもらい、研究の深化を図ることができた。 また、市内全小中学校等を対象に、令和5年1月17日に標準学力調査を実施した。 【基礎学力向上研究推進校】 2年次:鶴崎小学校、小佐井小学校、植田東中学校 1年次:西の台小学校、鷲野小学校、原川中学校 【標準学力調査実施教科】 小4:国語、算数、理科 中1:国語、社会、数学、理科、英語	学校教育課
		4	イングリッシュ・アドバイザー派遣事業	英語教育に関する専門的な知識と技能を備えるとともに、教職経験又は外国語指導助手経験が豊富で実績がある退職教員等を「イングリッシュ・アドバイザー」として各小学校及び義務教育学校に派遣し、英語教育に関する指導・助言を行い、教員の授業力を向上させることにより、児童の学力の定着・向上を図る。	イングリッシュ・アドバイザー3名を小学校専科教員が配置されていない小学校32校に派遣し、5、6年生の英語の授業において、チーム・ティーチングや英語教育に関する指導・助言を行い、小学校教員の英語教育に係る授業力の向上及び児童の学力の定着・向上を図った。	学校教育課
	5	学校図書館活性化事業	各小中学校において学校図書館の司書業務を支援する「大分市学校図書館支援員」を配置することにより、大分市の児童生徒に豊かな感性や情操を育む読書活動を推進し、読書に親しむおおいっ子を育てる教育活動の充実を図る。	1校専任40名、2校兼任20名の計60名を市内全小中学校等に配置し、児童生徒の読書指導のための利用促進や学校図書館における環境整備等の充実を図った。	学校教育課	
	6	民間プール活用委託事業	老朽化した学校プールの維持管理費等の確保や水質管理等に係る教員の負担等が課題となる中、近隣のスポーツクラブ等の民間プールを活用した水泳授業をモデル校において実施し、水泳授業の在り方について検証する。	大分市立金池小学校をモデル校として、近隣のスポーツクラブ「ルネサンスおおい」を活用した水泳授業を実施した。授業終了後、児童・教員へのアンケートや事業者への聞き取り調査などを実施するとともに、学校での水泳授業と民間プールを活用した水泳授業に係る経費や教育的効果等を比較するなど、今後の民間プールを活用した水泳授業の実施方法等を検証した。	体育保健課	
			7	歯と口の健康づくり事業	歯みがき指導、食に関する指導に加え、むし歯予防効果が高いフッ化物洗口を導入することにより、学校における歯と口の健康づくりを推進する。	フッ化物洗口については、新型コロナウイルス感染症の影響により、開始を延期してきたが、校内の感染状況に応じて実施できるよう、マニュアルや事業手法などを見直し、令和5年1月から市立学校全校で実施した。歯みがき指導については、歯科衛生士を派遣し、小学校3年生、5年生、中学校1年生を対象に市立学校全校で実施した。
	8 (市)	青少年国際理解推進事業	市内の小中学生が留学生とともに、簡単な英会話を楽しみながら、市内で「なぞ解き」等を行うイベント。 与えられたミッションを共有しながら活動および交流をする体験を通じて、子どもたちが外国人に親しみをもち、世界や多文化共生に目を向ける機会を創出する。	1.開催日時 令和4年12月11日(日) ①10:45～12:00 ②13:30～14:45 ③15:30～16:45 2.開催場所 アートプラザ 2階 アートホール 3.定員 144名 4.申込者数 135名 5.参加者数 121名 (応募総数135名のうち、事前キャンセル9名、当日欠席5名) 6.内容 留学生と一緒に謎解きなどをしながら、簡単な英語を使って異文化交流をするイベント	(市) 国際課	
			9 (市)	中学生オースチン留学事業	姉妹都市オースチン市との青少年交流の活性化及びグローバル人材の育成を図るため、市内の中中学生6名をオースチン市へ派遣し、テキサス大学等の英語学習プログラムを受講するほか、姉妹都市委員会との交流や市長表敬訪問等を行う。	【実施状況】 以下の内容での実施に向け準備中。 派遣期間:令和5年3月25日～4月4日 参加者:市内中中学生6名 ※引率職員2名 内容:ホームステイ体験しながら、語学学校で英語を学んだり、現地学生との交流、市内見学などの課外活動を通じて異文化を体験する。 その他:現地で活動するオースチン大分姉妹都市委員会に活動のアレンジ、サポートを依頼。

令和4年度 大分市教育大綱・大分市教育ビジョン関連事業の概要及び実績

資料2

新規事業

拡充事業

重点事業

(市)・・・市長部局

教育大綱 目標	教育ビジョン 重点施策	番号	事業名	事業の概要	事業の実績	担当課	
目標1 次代を担う人材育成	社会の変化への対応	10 (市)	ハーバード大学生との交流事業	一般社団法人Summer in JAPAN(サマーインジャパン 略称SIJ)が主催する英語のサマースクール「サマーインジャパン」では、ハーバード大学生が、世界各国から応募する生徒へ講義などを行っている。大分市とSIJが連携し、大分市を訪れたハーバード大学生と市内小・中学生が英語を使って交流する「SWIM」を開催する。 また、ハーバード大学生には大分の文化や自然等を体験してもらい、SNSなどを使い大分市の魅力を世界に発信してもらう。 ※SWIMとは、“Summer Workshop for Immersive Multiculturalism”(多文化にどっぷりつかるときの夏のワークショップ)の頭文字をとったもの。	実施日：交流会：8月8日(月) 事前英語講座：7月16日(土) 参加人数：120名(定員150名/申込者数390名)(小学3年生～中学3年生、初級、中級、上級の3コース) 実施内容： ●ハーバード大学生によるプレゼンテーション ●英語ワークショップ(作文、スピーチ) 会場：大分県労働福祉会館ソレイユ 7階カトレア 今年の目標：①高校入試までに英語を得意科目にする ②国際問題に関心を持ち世界中の仲間と共に取り組む人材を大分市から輩出する ※令和4年度は3年ぶりにハーバード大学生等が来市し、交流した。	(市) 国際課	
		11	外国語指導助手招聘事業	小学校3、4年生の外国語活動や、小学校5、6年生及び中学校の英語科を中心に、ALTを活用して児童生徒が外国語等の異文化に触れることにより、関心・意欲を高め、コミュニケーション能力の素地や基礎の育成を図る。	JETプログラムのALT28名と民間派遣事業者のALT6名の合計34名を各小中学校及び義務教育学校に派遣し、学級担任又は教科担当が英語の授業で活用することを通して、児童生徒の英語でコミュニケーションを図る資質・能力の育成を図った。 【外国語指導助手(ALT)を活用した年間総授業時間数】 13,586時間(令和3年度)→15,683時間(令和4年12月末時点)	学校教育課	
		12 (市)	東京オリンピック・パラリンピック事前キャンペーン受入れレガシー事業	令和3年度に東京オリンピック事前キャンプとしてフィジーオリンピック選手団を受け入れたことから、レガシー事業として交流事業を行っている。 今年度については、大分市とフィジー共和国双方の中学生によるオンライン交流会を実施する。	大分側の交流校は植田中学校と竹中中学校の2校に決定した。交流日、交流内容については調整中。	(市) 国際課	
		特別支援教育の充実	13	特別支援等教育活動サポート事業	学習や生活指導上、特に配慮が必要な児童生徒が在籍する学校に補助教員を配置し、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導を行う。	小学校に109名(義務教育学校前期課程を含む)、中学校(義務教育学校後期課程を含む)に25名の補助教員を配置し、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導を行った。	学校教育課
			14	特別支援教育アドバイザー派遣事業	小中学校及び義務教育学校に経験豊富で実績のある退職教員を「特別支援教育アドバイザー」として派遣し、特別支援学級担任及び通常の学級担任等に対し、特別支援教育に関する指導・助言を行い、教育上特別の支援を必要とする児童生徒への指導・支援の充実及び特別支援学級担任や特別支援教育コーディネーター等の専門性の向上に努め、校内支援体制の充実を図る。	市内を3地区に分け、それぞれに特別支援教育アドバイザー3名を拠点校及び対象校に派遣し、指導・助言を行った。	教育センター
		幼児教育の充実	15 (市)	市立幼稚園一時預かり事業	市立幼稚園3園(舞鶴幼・宗方幼・大在幼)において、自園の園児を対象に通常の教育時間終了後及び長期休業日に、保護者の希望により17時30分まで有料で園児を預かる。	【1日平均利用人数実績】 令和2年度 44.7名 令和3年度 41.1名 令和4年度 39.4名(12月末時点)	(市) 保育・幼児教育課
	目標2 学びのセーフティネットの構築		全ての子どもの学びの保障	16 (市)	子育て世帯訪問支援事業	家事・育児に対して不安や負担を抱えているヤングケアラーおよび妊産婦等に対して、家事・育児支援ヘルパーを派遣する。	令和4年10月より実施。市内12か所の訪問介護事業所と契約を結び、12月末時点での実績は、相談26件、申請16件、利用決定13件(うち、ヤングケアラー事案は申請件数4件、利用決定3件)となっている。
		17		スクールソーシャルワーカー活用事業	不登校をはじめ、いじめ・暴力行為・児童虐待など生徒指導上の課題への対応が求められる中、行政や関係機関と連携した相談活動など包括的な支援を行うため、スクールソーシャルワーカーを効果的に配置し、児童生徒のおかれた様々な環境に働きかけるとともに、学校における教育相談体制の整備、充実を図る。	会計年度任用職員のスクールソーシャルワーカー(以下、「SSW」という。)22名を、中央、東部、西部の3エリアに配置し、市立小中学校及び義務教育学校を担当した。また、主任SSWを教育センター及び東部・西部子ども家庭支援センターに各1名、統括SSWを教育センターに1名配置した。 【対応事案件数】(令和4年12月末時点の累計) 2,003件(令和3年度)⇒1,732件(令和4年度)	教育センター
		18		いじめ・不登校等未然防止対策事業	hyper-QU検査を行い、児童生徒や学級の現状及び課題を的確に把握し、いじめ・不登校等の未然防止につながる学級集団作り等に活用する。	hyper-QU検査を年間2回、全小学校(第4学年～第6学年)、全中学校(第1学年～第3学年)、義務教育学校(第4学年～第9学年)において実施した。各学校においては、年2回の実施を通して、児童生徒や学級の状況の変容を把握するとともに、分析結果を具体的な学級集団の改善に活用するなど、生徒指導や学級経営に役立てることができた。	学校教育課

令和4年度 大分市教育大綱・大分市教育ビジョン関連事業の概要及び実績

資料2

新規事業

拡充事業

重点事業

(市)・・・市長部局

教育大綱 目標	教育ビジョン 重点施策	番号	事業名	事業の概要	事業の実績	担当課
目標2 学びのセーフティネット の構築	全ての子どもの学びの 保障	19	不登校児童生徒支援事業 (スクールライフサポーター活用事業)	学校に登校はできるが教室にはいけない児童生徒が教室復帰したり、登校に無気力さや不安を抱える児童生徒が安心して登校したりできるよう支援や援助をする目的で、中学校と、義務教育学校にスクールライフサポーター(各校1名)を配置する。	生徒指導や教育相談に関する専門的な知識と技能を備えた退職教職員をスクールライフサポーターとして計9校に配置し、児童生徒が安心して通える居場所を作り、教室復帰や社会的自立に向けた支援を行った。	学校教育課
		20	奨学助成事業	高校生及び大学生を対象に奨学資金の貸付を行うほか、高校生を対象に「未来自分創造資金」として返済の必要のない奨学資金の給付を行う。	未来自分創造資金については、募集定員100名に対し、87名の応募があった。	学校教育課
		21	就学援助事業	経済的理由により就学困難と認められる児童及び生徒の保護者に対して、就学に必要な費用の援助等を行う。	令和5年1月末現在、5,744名の児童生徒に対し、就学援助を行っている。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、家計が急変した世帯に対応するための認定基準に基づき、24名の家計急変世帯を支援した。	学校教育課 体育保健課
		22 (市)	放課後等デイサービス (障害児通所支援事業)	学校就学中の障がい児等に対して、放課後や長期休暇中において、生活能力向上のための訓練等を継続的に提供する。 学校教育と相まって障がい児等の自立を促進するとともに、放課後等の居場所づくりを推進する。	内容:こどもセンターかおるおか(特定非営利法人おおい子ども支援ネット)の菊池朋子施設長による講義やグループワーク等を通じて、支援技術の向上を図った。 参加者:放課後等デイサービス事業所の児童発達支援責任管理者等 【参考】放課後等デイサービス実施状況(令和4年11月末現在) 利用者数 1,481人 事業所数 114カ所	(市) 障害福祉課
		23	日本語指導等支援事業	各学校に在籍する日本語指導が必要な児童生徒等の学校生活への円滑な適応を図るため、日本語指導を行う講師や日本語指導専任指導員、通訳を各学校に派遣する。	日本語指導が必要な児童生徒が在籍する学校に、日本語指導専任指導員又は民間の日本語指導講師を派遣し、適切な指導や支援を行い、学校生活への円滑な適応を図った。また、日本語の理解が十分でない保護者に対しては、民間の通訳者を派遣して就学相談及び進路指導等に取り組んだ。 また、令和4年度から、日本語指導に係る連絡会を設定し、日本語指導専任指導員から日本語指導講師への引継ぎや情報共有を図るとともに、8月と12月に外部講師を招いて指導技術向上のための研修会を実施した。 【活用状況】 日本語指導専任指導員2名・・・対象児童生徒11名 日本語指導講師12名・・・対象児童生徒26名、延べ指導回数594回、1人当たりの平均指導回数22.8回 通訳者2名・・・対象保護者6名、延べ通訳回数3回 (令和4年12月末時点)	学校教育課
		24	特別支援教育メディカルサポート事業	日常的に痰の吸引などの医療的ケアを必要とする児童生徒に対して、訪問看護ステーションから看護師を派遣し、医療的ケアを実施することで児童生徒の安全な学校生活及び保護者の負担軽減等、合理的配慮を図り、児童生徒の教育機会を保障する。	【利用状況】 実施回数:1,426回(令和4年12月末の時点) 小学校4校7名、中学校1校1名(導尿、喀痰吸引、ヘパリン生食注水)	教育センター
		25 (市)	医療的ケア児教育・保育事業	日常生活及び社会生活を営むために恒常的に医療的ケアを受けることが不可欠である児童が在籍している特定教育・保育施設に訪問看護ステーションから看護師を派遣し、医療的ケアを実施することにより、就学前の子どもの安全な集団保育及び教育活動の確保並びに保護者の負担軽減を図り、もって児童福祉の向上及び教育機会の保障に寄与する。	令和4年度においては、市立幼稚園1園で2名、市立保育所2園で2名、私立保育所1園で1名が事業を利用している。 市立幼稚園の1名は令和3年4月から医療的ケア(導尿)を開始し、1日1回、30分以内の利用をしている。もう1名は、令和4年1月に入園し、適正運営委員会における、看護師の常駐が必須との判断の下、医療的ケア(たんの吸引、経管栄養、在宅酸素)を行っている。保護者の希望により、週1～2回程度の利用である。 市立保育所の1名は令和4年4月から医療的ケア(経管栄養)を開始し、1日1回60分以内の利用である。市立保育所のもう1名は令和4年7月から医療的ケア(導尿)を開始し、1日1回30分以内の利用で、週1～2回程度の利用である。 私立保育園の1名は、令和4年7月から医療的ケアを開始している。腹膜透析を行っており、そのチューブの出口部分のガーゼ交換を行っている。1日1回30分以内の利用である。	(市) 保育・幼児教育課

令和4年度 大分市教育大綱・大分市教育ビジョン関連事業の概要及び実績

新規事業

拡充事業

重点事業

(市)・・・市長部局

教育大綱 目標	教育ビジョン 重点施策	番号	事業名	事業の概要	事業の実績	担当課
目標3 質の高い学びを実現する 教育環境の整備	時代の変化に対応した 教育環境の整備	26	学校施設照明LED化整備事業	学校施設(校舎、体育館、武道場等)の照明をLED化させることで、電気料金の削減が見込まれる。 民間事業者と協議を行いながら、学校運営への影響、短期間の施工、電気代削減を十分検討したうえで、適切な事業方式や事業内容を検討する。	一部の小中学校の照明器具等を調査したうえで、学校運営に支障をきたさないための短期間施工や事業方式等について民間事業者と協議した。	学校施設課
		27	学校施設整備保全事業(長寿命化改修) (小・中)	「大分市教育施設整備保全計画」に基づき、建物を築80年まで使用するため、小中学校施設の長寿命化改修を行う。	・植田西中学校(体育館) 改修工事 1月末完成 ・大道小学校(体育館) 設計 2月末完成予定 ・植田小学校(体育館) 設計 1月末完成 ・鶴野小学校(体育館) 設計 1月末完成 ・判田中学校(体育館) 設計 11月末完成 ・城南中学校(校舎、プール) アドバイザー業務委託の契約を11月締結(R4~R5) (募集書類作成、審査委員会資料作成、契約締結支援等)	学校施設課
		28	大在東小学校施設整備事業	大在中学校区の人口増加に伴い、大在小学校及び大在西小学校の学級数の増加が今後も見込まれることから、通学区を再編し、分離新設校を整備する。 敷地内に児童育成クラブ等を含めた一体的な施設整備をデザインビルド方式(設計・施工一括発注)にて実施し、令和6年4月の開校を目指す。	・令和4年4月末 基本設計 完成 ・令和4年10月中旬 実施設計 完成 ・令和4年10月中旬 校舎等の建設に着手	学校施設課
		29	金池小学校施設整備事業	「大分市教育施設整備保全計画」に基づき、金池小学校の校舎群を改築するとともに、校地の有効活用を図るため敷地内にある児童育成クラブ、認定こども園などを含めた一体的な施設整備をPFI事業にて実施する。グラウンド整備を含め、令和5年12月に整備工事が完了する予定である。	令和4年11月末に金池小学校(校舎・体育館)、金池幼稚園、児童育成クラブの複合施設が完成し、令和5年1月から供用開始した。 令和5年1月中旬からは、校舎等の解体工事に着手した。(令和5年6月完了予定)	学校施設課
		教職員の資質能力の向上及び働き方改革の推進		30	教職員指導力向上推進事業	教職員としての使命感や教科指導等の職務遂行のために必要な専門的知識や技能、広く豊かな教養、これらを基盤とする実践的指導力の向上を図る教職員研修を企画、運営する。
31	スクールサポートスタッフ配置事業			教職員の事務負担を軽減し、子どもと向き合うための時間を確保するため、スクールサポートスタッフを配置する。	全小中学校及び義務教育学校(分校を除く)に、81名のスクールサポートスタッフを配置し、授業で使用する学習プリント等の印刷・配布準備、授業準備・片付けや消毒作業等を行うことにより、教職員の事務負担の軽減及び新型コロナウイルス感染症対策を図った。	学校教育課
32	学校給食費公会計化等学校徴収金管理事業			【体育保健課】令和4年度より導入された学校給食費の公会計化に伴い構築した学校給食費・徴収金管理システムを使用し、学校給食費を一括して徴収管理するとともに、滞納整理業務を行う。 【学校教育課】私会計である学校徴収金については、令和4年度に導入した学校給食費・徴収金管理システムにより、徴収事務の標準化、効率化、省力化を図り、教員の事務負担を軽減することにより、子どもたちと向き合う時間を確保する。	【体育保健課】学校給食費の公会計化に伴い、口座振替による徴収を実施するなど、保護者の利便性を向上させることができた。また、これまで学校で行っていた、学校給食費の管理徴収と滞納整理事務を市が一括管理することにより、これらの業務を計画的かつ効率的に実施することができるようになった。 【学校教育課】学校徴収金については、先行実施校15校において口座振替による徴収を実施し、徴収事務に係る教員の負担軽減を図るとともに、全校実施に向け、事務担当者への説明や児童生徒の保護者へ口座振替の申込みをお願いするなどの準備を進めている。	学校教育課 体育保健課
33	学校連絡システム整備事業			緊急時に迅速且つ正確に情報配信等を行うことができる「学校連絡システム」を運用し、学校や教育委員会と保護者等間の連絡体制を整備することで、児童生徒の安全・安心を一層促進する。 また、併せてアンケート機能や欠席遅刻連絡機能等、教職員の負担軽減を図ることができる機能を有したシステムの運用を行う。	新型コロナウイルス感染症が拡大する中、臨時休業の対応において、各家庭への連絡や児童生徒の健康状態の把握など迅速な対応ができた。また、欠席・遅刻連絡機能やアンケート機能を活用することにより、教職員の負担軽減と保護者の利便性の向上につながった。 【令和4年12月末時点 保護者登録率99.3%】	体育保健課
34	部活動指導員活用事業			中学校に「部活動指導員」を配置し、同指導員による単独指導と大会等への単独引率を可能とすることにより、部活動の充実、活性化及び教員の部活動における負担軽減を図る。	市内中学校17校(運動部23部、文化部7部)に部活動指導員を30名配置し、生徒に対し専門的な技術指導を行うとともに、教員の部活動指導に係る負担軽減を図っている。 【R5.1.1現在】 ■運動部23名(柔道2、サッカー3、空手道1、野球1、バスケット5、卓球4、ソフトテニス1、水泳1、剣道2、バレー2、陸上1) ■文化部7名(コーラス1、茶道1、合唱2、放送・演劇1、吹奏楽2)	体育保健課

令和4年度 大分市教育大綱・大分市教育ビジョン関連事業の概要及び実績

新規事業

拡充事業

重点事業

(市)・・・市長部局

教育大綱 目標	教育ビジョン 重点施策	番号	事業名	事業の概要	事業の実績	担当課
目標3 質の高い学びを実現する教育環境の整備	教職員の資質能力の向上及び働き方改革の推進	35	運動部活動総合活性化事業	地域の高度な指導力を持つ人材を運動部活動に活用することにより、生徒の多様なスポーツニーズに応え、運動部活動の実施体制の整備を図るとともに指導者の資質向上並びに適切な運動部活動の運営に寄与する。また、トップアスリートによる実技講習会を開催し、生徒に運動する楽しさ・喜びを味わわせ生涯スポーツの基礎を培い、競技力の向上につなげる。	運動部活動外部指導者人材バンクに271名が登録しており、このうち220名の外部指導者を25校が活用し、運動部活動の実施体制を整備している。【R5.1.1現在】 また、登録者に対して研修会を実施し、外部指導者の資質向上を図った。	体育保健課
	地域とともにある学校づくりの推進	36	学校評議員・学校運営協議会	各学校の運営及び運営への必要な支援に関して協議する機関として、学校運営協議会を各学校の実情に応じて設置する。	学校運営協議会制度等を活用し、「地域とともにある学校づくり」の推進に向けて、保護者や地域住民等の学校運営への参画等を進めることができた。 【学校運営協議会】 小学校42校、中学校21校、義務教育学校1校 計64校 【学校評議員】 79名	学校教育課
目標4 生涯学習支援体制や家庭教育支援の充実	生涯学習支援体制の充実	37 (市)	公民館類似施設整備事業	地域が管理運営する校区公民館・自治公民館の新築・改築・耐震工事等に要する経費の一部を補助することで、地域住民の生涯学習施設、地域づくりの拠点施設、災害時の防災拠点施設として十分な機能を備えたものとなるよう施設整備を促進する。	【件数・補助額見込み(令和4年12月末)】 新築・改築等 2件 33,867千円 土地購入 1件 49,990千円 耐震改修 1件 7,744千円 耐震診断 3件 2,120千円 修繕等 102件 80,054千円 計 173,775千円	(市) 市民協働推進課
		38	地区公民館施設整備事業	「大分市公共施設等総合管理計画」及び「大分市教育施設整備保全計画」に基づき、市内で一番古い鶴崎公民館の長寿命化改修を実施し、施設の利便性の向上及び機能充実を図る。	鶴崎公民館については改修工事を実施しており、昨年度に引き続き、増築する集会室棟の建設工事を実施した。	社会教育課
		39	のつはる西部の楽校管理運営事業	旧野津原西部小学校跡地の利活用として、宿泊施設を整備した。自然に囲まれた美しい景観を活かした交流の場を通じ、社会教育の推進を図る。施設の周辺環境を活かし、家庭・地域では得難い体験の場や人々とふれあう機会を提供することで、社会教育の推進と地域の活性化に貢献する。	7月の供用開始後、地域住民、スポーツ少年団や各種サークル等の利用があり、令和4年12月末時点での利用者数は以下のとおりである。 宿泊利用者:16団体346名 日帰り利用者:33回375名	社会教育課
		40	関崎海星館施設整備事業	天文分野に関する学習の場や佐賀関の自然や豊予海峡を臨む景色が堪能できる憩いの場である関崎海星館について、施設の長寿命化及び機能の強化を図る。	建物改修工事及び天文関連(望遠鏡の更新、プラネタリウムの新設、展示の充実)の製作・製造を実施している。今後は、令和5年度にかけて外構改修工事を行う。	社会教育課
		41	市民図書館管理運営事業	学校、地区公民館等及び関連部署との連携により、生涯学習支援体制の整備を行うとともに、滞在型の図書館を目指し、読書環境のさらなる充実を図るための事業を展開する。	読書活動の推進を図るため、本のリサイクルフェアや環境かるた遊びなど参加型事業の実施やYA世代に向けた広報誌を新規に作成するなど幅広い市民の図書館利活用に努めた。また、視覚障がい者向け図書利用サービスであるサビエ図書館に登録するとともに、福祉施設や支援学校を訪問し、団体利用の拡大を図った。	社会教育課
		42	おおいたナイトスクール事業	さまざまな理由により、中学校で十分に学べなかった人や、生涯学習として中学校程度の学習内容を学び直したい人、大分の生活、文化や日本語を学びたい人に対して学習の機会を提供する。	植田公民館、コンパルホール、鶴崎公民館の3会場で実施した。 ○植田公民館(火) 英語(中学1年程度)・国語(中学1年程度) ※受講人数19名 ○コンパルホール(水) 英語(中学2年程度)・国語(中学2年程度)・国際科 ※受講人数35名 ○鶴崎公民館(木) ふるさと知ろう科・数学(中学1年程度) ※受講人数21名	社会教育課
43 (市)	子どもの学習支援事業	「生活保護受給世帯」及び「就学援助受給世帯」の中学生を対象に、学習塾にかかる費用の月額1万円(3年生に限り、7・8・12・1月は月1万5千円)を上限として一部助成し、子育て世帯の負担軽減を図り、子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、子どもたちに学力を向上するための機会を提供する。	【指定学習塾数】219ヶ所(令和5年1月1日時点) 【決定者数】857人(令和5年1月1日時点) 【述べ利用者数】4,789人(令和4年11月末時点) ※遡り請求があるため、今後数字に変動有	(市) 生活福祉課		

令和4年度 大分市教育大綱・大分市教育ビジョン関連事業の概要及び実績

新規事業 拡充事業 重点事業

(市)・・・市長部局

教育大綱目標	教育ビジョン重点施策	番号	事業名	事業の概要	事業の実績	担当課
目標5 地域における子どもの健全育成の充実	地域活動の充実	44	おおいたふれあい学びの広場推進事業	学校を中心とした身近な場所で、地域の指導者や団体等との交流を通じ、体験活動を行う。	市内19校区で子どもの体験活動を中核とした事業を実施した。19校区の事業主催団体に対し、活動回数に応じた補助金を交付し、活動を支援した。 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、16校区での活動が中止となった。	社会教育課
	地域における子どもの健全育成	45 (市)	児童育成クラブ事業	就労などにより保護者が昼間家庭にいない小学校の児童を対象として、放課後に適切な遊びや生活の場を提供し、仕事と子育ての両立支援と児童の健全育成を図る。	令和4年度は、金池小学校の建替えに伴い、児童育成クラブも新たに校舎内にクラブ室を設置し、定員も200名分(これまでは77名定員)を確保した。 また、旧東大分幼稚園を児童育成クラブで利用したり、民間放課後児童クラブにおいても定員の拡充を図ることで、全体で189名分の定員を確保した。 【参考】実施状況 児童育成クラブ :54クラブ 民間放課後児童クラブ :16クラブ 合計:70クラブ	(市) 子育て支援課
		46	青少年育成事業(中央補導活動事業)	大分市青少年補導員が気になる行動への声かけや商業施設からの情報収集を積極的に行い、子どもの非行防止に努める。	市内中心部のゲームセンターやカラオケ、商業施設等を巡回し、大分市青少年補導員が気になる青少年へ声かけをするとともに、商業施設からの情報収集を積極的に行い、子どもの非行防止に努めた。 ・市民補導員による中央補導を月10回実施 ・学校補導員による夜間補導を月4回実施	社会教育課
目標6 文化・芸術を生かしたまちづくり	美術の振興と発信	47	新たな知の拠点整備事業	令和3年3月に策定した「アートプラザのあり方及び周辺エリア整備基本構想」においてアートプラザのあり方の方向性を「新たな知の拠点」とし、これを実現するために7項目の整備方針を定めた。 この方針に基づき、磯崎新氏関係資料等の公開に必要な閲覧の場の拡充、同資料のデータ化及びデジタルアーカイブの構築などを図り、建築家磯崎新氏の多様な活動を紹介するとともに建築や芸術などの研究者、芸術家や幅広い市民が集う「新たな知の拠点」として整備を行う。	「新たな知の拠点整備概要」について、外部有識者を交えた会議において検討中、パブリックコメントを実施の上、策定した。 なお、アートプラザの躯体健全性・劣化度調査については、今年度中に調査を終了する予定である。 また、磯崎新氏より寄贈を受けた図書資料の検索に必要なデータ整備を実施している。	美術振興課
		48 (市)	アートを活かしたまちづくり事業	文化・芸術の持つ創造性を、産業の振興や地域の活性化に活かすために、平成29年1月策定の「大分市アートを活かしたまちづくり推進戦略」に基づき、アートフェスティバル等のイベントなどを開催する。	第3回アートフェスティバルを開催した。 大分アートフェスティバル2022「回遊劇場 AFTER」 会期:令和4年10月28日(金)～11月27日(日)の31日間 場所:市内中心市街地 内容: 1.アートステーション…参加アーティスト13組の作品展示 2.ウォールアート…新規作品数:壁画1作品、シャッターアート1作品 3.アートマルシェ…参加店舗:9店舗 参加アーティスト:7組 4.アートイベント…実施回数:20回 5.パブリックアート…紹介作品数:20作品	(市) 商工労政課
		49 (市)	アーティストバンク推進事業	本市を拠点に活動する文化・芸術団体や個人のアーティストの活動を支援するため、活動者及び活動・発表の可能な場所の情報をデータベース化し、双方のマッチングを図る。	「アーティストバンク(仮称)」の設立に向けた現状分析として、文化・芸術団体(個人)及び事業者の双方に、民間施設・店舗等における発表場所としての利用実態や課題を調査するとともに、コロナ禍の影響や今後、制度に期待する内容等を聴取した。調査結果として、アフターコロナを見据えた双方のマッチングによる発表の機会の創出や店舗の賑わい創出に向けた相乗効果等を期待する声が多かった。	(市) 文化振興課
		50 (市)	アートレジオン推進事業	人口減少や少子高齢化が進む周辺地域に市内外からアーティストを呼び込み、アートイベントや制作活動等を通して文化・芸術の振興を図るとともに、地域住民との交流を促進することで、地域活性化につなげる。	①旧小学校を活用したアトリエ利用 令和5年1月現在 旧大志生木小学校7名/旧野津原中部小学校4名 ②周辺地域におけるアートイベント ・アトリエ利用アーティストを講師としたワークショップ 令和4年8月 判田こどもアート学校 開催 令和4年11月 大志生木こどもアート学校 開催 令和5年3月 野津原こどもアート学校 開催予定 ・地域周遊型展覧会 令和4年8月20日～9月16日 だいなんアートコレクション 開催	(市) 文化振興課
		51 (市)	のつはる音の森フェスティバル	年間を通して音楽が溢れ、道行く人が心とむよな「音楽のまち大分」の実現するため「おおいた夢色音楽プロジェクト」を推進しており、その一環として、のつはる天空広場において、市内中学校吹奏楽部や別府アルゲリッチ音楽祭と連携した若手演奏家の発表の機会を提供することで、次世代の音楽文化の担い手の育成と地域の活性化を図る。	①のつはる音の森フェスティバル2022 日にち:9月10日、11日 場 所:のつはる天空広場 出演者:市内中学校・高校吹奏楽部、活水中学校・高校吹奏楽部(長崎県)、アルゲリッチ財団推薦アーティスト、市内で活動しているアーティスト など ②ななせコンサート ※のつはる音の森フェスティバルプロモーションコンサート 日にち:9月4日 場 所:野津原市民センター 出演者:枝次竜明Project、朝来桂一・松田大輔	(市) 文化振興課

令和4年度 大分市教育大綱・大分市教育ビジョン関連事業の概要及び実績

新規事業

拡充事業

重点事業

(市)・・・市長部局

教育大綱 目標	教育ビジョン 重点施策	番号	事業名	事業の概要	事業の実績	担当課
目標6 文化・芸術を生かしたまちづくり	文化財の保護・保存・活用	52 (市)	大分城址公園整備・活用事業	大分城址公園は、府内城の歴史的・文化的資源を活かしながら大分市のシンボルとなる公園である。「大分城址公園整備・活用基本計画」に基づき、取り組みを進めることにより、新たな魅力を有する「歴史文化観光拠点」としての形成を図る。	令和4年度は石垣や城壁の演出照明の整備を行うとともに、昨年度に引き続き文化財に係る文献調査を実施し、事業の推進を図った。 また、コンテナハウス案内業務を再開し、情報発信を行った。	(市) 公園緑地課
		53	大友氏遺跡保存整備事業	約400年間豊後を支配した、戦国大名大友氏の本拠地である大友氏遺跡を将来にわたり保護、保存するため、大友氏遺跡歴史公園の計画的な史跡指定と公有化を推進し、同時に整備を行っていく。	「史跡大友氏遺跡整備基本計画(第1期)」に基づき、大友氏館跡建造物等復元検討委員会を実施し、中心建物の平面プランの確定作業及び立面図の復元作業を進めている。さらに中心建物域建造物の検討も併せて行っている。大友氏館跡の発掘調査では、計画どおり南西隅に調査区を設け実施し、館の外郭施設の溝等が発見された。歴史公園整備に関しては、6月に市道顕徳10号線及び市道錦町10号線の一部が廃止され、令和5年1月末をもって撤去工事が完了した。	文化財課
		54	FUNAI文化遺産整備基金積立金	かつて「府内」と呼ばれた大分市中心部は、現在も大友氏関連史跡や豊後府内城などの貴重な文化遺産が存在している。これらの保全と整備、ならびに歴史を活かしたまちづくりの機運醸成に資するために、条例を設置し、5月の条例施行にあわせて、貴重な文化遺産の整備の一部に寄附を募ることをHPの掲載やチラシの配布、各種イベント時の周知等で図っていく。	「FUNAI文化遺産整備基金条例」の施行に併せ、5月から寄附金の受付を開始した。寄附金の募集を周知するチラシを東京都・神奈川県の大分県人会・市人会において配布するとともに全国の文化施設等にチラシを送付した。また、大分市ホームページ、6月の市報に案内を掲載し、10月に実施した「大友氏遺跡フェスタ・宗麟公まつり」において専用ブースを設置し来場者に周知を図った。	文化財課
目標6 文化・芸術を生かしたまちづくり	文化財の保護・保存・活用	55	小牧山古墳群基盤整備事業	松岡地区に所在する県指定史跡小牧山古墳群は、自然に恵まれた環境の中に6基の古墳がそのままの状態で見守られており、市民の心身の健康を保つ癒しの場として、また地域の歴史に対する理解を深める学びの場として利用されている。今後は、古墳周囲の樹木を伐採し、周辺自然環境の眺望を良くするとともに、市民が利用しやすい環境整備等を行う。	8月～9月に老朽化した展望台の撤去及び展望地南側に転落防止のための安全柵を設置した。また、落葉時期にあたる12月に史跡指定区域及び展望地周辺の樹木調査を行い、2月に樹木の間伐を実施した。	文化財課
		56	DXIによる地域文化資源の継承及び活用推進事業	本市には、多くの有形・無形の文化財、史跡の他、地域の行事や伝統芸能、豊かな自然や景観・まちなみ等の「文化資源」が存在している。本事業では、これらの貴重な文化資源を次世代へと継承し、観光・地域活性化・教育など、様々な分野へ活用していくことを目的として①『大分市文化資源デジタルアーカイブ(仮称)』の構築・公開、②「ワークショップによる文化資源の情報収集と活用促進」、③「文化資源を活用するための拠点施設の充実」を実施する。 これにより、市民に対し「本市の歴史文化の魅力の再発見」、「市民の誇りと郷土愛の醸成」を促すとともに、本市の歴史文化の魅力を全国に向けて発信することにより本市が進める「地域まちづくりビジョン」の具現化に資することが期待できる。	デジタルアーカイブの令和5年4月公開にむけて、システム構築及び公開データのデジタル化を実施している。	文化財課
目標7 スポーツを通じた地域活性化		57 (市)	トップアスリート育成・支援事業	(障害福祉課) 選手の競技活動に対する支援を行うことで、本市にゆかりのある選手が国際大会等の舞台上で活躍することで、市民のスポーツに対する興味・関心が高まり、本市におけるスポーツ振興や競技力の向上につながる。 (スポーツ振興課) 選手の競技活動に対する支援を行うことで、本市にゆかりのある選手が国際大会等の舞台上で活躍することで、市民のスポーツに対する興味・関心が高まり、本市におけるスポーツ振興や競技力の向上につながる。	(スポーツ振興課) 補助対象者30名うち申請見込20名(令和5年1月末時点) (障害福祉課) 補助対象者4名うち申請見込4名(令和5年1月末時点)	(市) スポーツ振興課 障害福祉課
		58 (市)	大南地区スポーツ施設整備事業	平成27年大分市スポーツ推進審議会からの答申や、大南地区振興協議会から継続的な市長要望等を踏まえ、大分市の大南地区にスポーツ施設を整備し、地域で身近に利用できるスポーツ施設の環境を創出することで、大南地区ひいては本市におけるスポーツ実施率の向上や、本市のスポーツ施設配置状況における地域バランスの是正等を図る。	造成工事等の実施	(市) スポーツ振興課

令和4年度 大分市教育大綱・大分市教育ビジョン関連事業の概要及び実績

新規事業

拡充事業

重点事業

(市)・・・市長部局

教育大綱 目標	教育ビジョン 重点施策	番号	事業名	事業の概要	事業の実績	担当課
目標7 スポーツを通じた地域 活性化		59 (市)	スポーツコミッション推進事業	ラグビーワールドカップ2019大分開催及び東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の国際大会を開催した成果を一過性のものとせず、スポーツ合宿や大型スポーツイベントを誘致することにより、交流人口の拡大、地域経済の活性化、本市の知名度向上、市民のスポーツへの興味関心の喚起及び地域の愛着心の醸成を図る。	【ハンドボール女子日本代表】 (期間) 令和4年4月30日～5月8日(参加人数)27人 (場所) 昭和電工武道スポーツセンター 【堺プレイヤーズ(バレーボール)】 (期間) 令和4年7月25日～7月30日(参加人数)17人 (場所) 南大分体育館、サイクルショップコダマ大洲アリーナほか 【フェンシング・サーブル日本代表】 (期間) 令和4年10月17日～10月26日(参加人数)33人 (場所) コンパルホール 【コベルコ神戸スティーラーズ(ラグビー)】 (期間) 令和4年11月2日～11月6日(参加人数)76人 (場所) 豊後企画フィールド、豊後企画ワークアウト 【ソフトバンクホークスチーム甲斐(野球)】 (期間) 令和5年1月11日～1月25日(参加人数)20人 (場所) 別大興産スタジアム 【明治大学競走部(陸上競技)】※予定 (期間) 令和5年2月22日～3月4日(参加人数)約45人 (場所) レゾナックドーム大分周辺 【青山学院大学陸上競技部(陸上競技)】※予定 (期間) 令和5年3月16日～3月25日(参加人数)未定 (場所) レゾナックドーム大分周辺	(市) スポーツ振興課
目標8 人権尊重を基盤とした 教育活動の充実	学校教育における 人権・同和教育の推進	60	教育指導一般事業 (啓発資料の作成等)	部落差別をはじめあらゆる差別の解消に向け、さまざまな人の考えや気持ちを共感的に理解できる力をはぐくむ教育の推進と充実に努める。	以下資料を作成の上、配付した。 ■児童生徒対象(じんけんハンドブック) ■保護者対象(学習資料「じんけん」、啓発資料「わたしも大切 あなたも大切」)	人権・同和教育課
	社会教育における 人権・同和教育の推進	61	教育指導一般事業 (人権教育推進協議会等)	人権・同和教育の解決に向け、各地区人権教育(尊重)推進協議会等との連携を強化し、市民の主体的な取組を促す学習機会の提供に努める。	13地区人権教育(尊重)推進協議会において、市民を対象にした講演会等を実施した。 【令和5年2月末現在】 ■評議員研修 31回 ■人権講演会 14回 ■地区懇談会 88回 実施	人権・同和教育課
目標9 人権尊重社会の実現に に向けた人権啓発の推進	人権啓発の推進	62	人権フェスティバル等事業	「市民一人一人が互いに人権を尊重し合い、共に生きる喜びを実感できる地域社会の実現」へ向け、大型商業施設等において啓発活動を行う。地域住民の参加・交流を促し、人権啓発の推進を図る。	「市民一人一人が互いに人権を尊重し合い、共に生きる喜びを実感できる地域社会の実現」へ向け、イオンパークプレイス大分、J:COMホルトホール大分、お部屋ラボ祝祭の広場、地区公民館及び旭町文化センターにて、啓発活動や講演会等を実施した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、取組内容の変更や人数制限を行った。	社会教育課